

いまもあしたも誇れる座間であるために...

発行者：おぎはら健司  
発行元：座間市相模が丘3-24-2-203  
連絡先：046-204-5911 (ファックスも同じ)

# おぎはら健司の市政レポート

平成27年最初のレポートです！

平成27年がスタートして3週間近く経過しましたが、お変わりありませんでしょうか。

昨年末に衆院選挙が行われ、毎年初めの週には所属する会派『新政いさま』として市内各駅にて新年の広報活動を行う事に加え、1月12日に体調を崩し人生初のインフルエンザに罹患したため、17日まで医師から外出を禁じられてしまい、久しぶりの朝の広報活動になってしまいました。皆さんも猛威をふるっているインフルエンザにはくれぐれもご注意下さい。

前置き(言い訳?)が長くなりましたが、本年も変わらぬご指導を宜しくお願い致します。

さて、前号までの内容は平成25年度の決算認定について政策別の詳細をお伝えして参りましたが、時間もだいぶ経過してしまいましたので、決算内容については、ご興味のある方はリクエストを頂ければ個別にお伝えさせて頂くとして、昨年12月に開催された平成26年第4回定例会に於ける私の一般質問について、お伝えしたいと思います。

質問内容は、定例会ごとに議会だよりが発行されますが、各議員に与えられる紙面は範囲が限られ、伝えたい事を掲載するには窮屈なので、ここでは議会だより(最新号は2月15日発行予定)で掲載できない部分をお伝えします。

今回の一般質問では、強い心を育てる教育更なる都市間交流の2点を質問いたしました。

について、中学・高校とサッカー部に所属していた体育会系な私の基本的な考え方は、勉強(頭)も大事だけど、心を鍛える事は更に大切という考え方です。

仕事柄、企業経営者や人事・採用担当の方とを意見交換する機会が多いのですが、異口同音に聞かれるのが「最近の子ども(新入社員)は、気持ち弱い」という言葉で、上司や先輩から強く当たられると精神的に参ってしまい入社拒否をする、あるいはすぐに会社を辞めてしまうといった声を本当に良く耳にします。

一方、全国の教育委員会や教育の現場であらゆる手段を検討し鋭意努力がなされておりますが、なくならないのがイジメであります。

極端な意見になりますが、もちろんイジメというのはなくす事が出来ればベストなのですが、様々な取組みを持ってしても今だに根絶には至っていないというのが私の感想で、これらの課題解決のためには、小中学校といった義務教育過程で、負けない心、強い心を備えさせるべきと考えています。

ところで、最近のイジメで一番多くを占めるのが「冷やかし・悪口」だそうですが、それらをイジメとするならば、思春期真っ只中の子ども達は些細な事でも「冷やかし・悪口」としてイジメを行いますし、さらにエスカレートすれば「仲間はずれ」「無視」という行動に走るのではないのでしょうか。一概に比較できませんが、そうした経験は私も中学生時代に体験いたしましたので、現在のモノサシで言えば私もイジメられっ子という事になります(笑)。

冷やかされたり悪口を言われた時に、「意に介さず」という強い心を持つ事、すなわち、精神力を強くする、あるいは部活動などを通じて上下関係を学ぶ等の経験をする事で強い心が育ち、結果としてイジメは減少させられるのではないかと、そして社会でも通用する人材を育成出来るとの考えから、多方面から高い評価を得ている本市の教育行政の基本的な考え方「豊かな心を育むひまわりプラン」に於いて、強い心を育てる必要性と、中学校に於ける部活動の更なる充実について提案させて頂きました。

質問の最中、いわゆる「革新系」と称される数名の議員からヤジ(彼らに言わせると『独り言』)を浴びせられましたが、多くの同僚議員からは背中を押す声を上げていただきました。

結果、新たな取組みについての明確な答弁を引き出すまでには至りませんでした。議会終了後、教育長からは「我々が声を上げにくいテーマについて、良いタイミングで質問を頂けた」と声をかけていただきました。

今回のやり取りを契機に、新しい具体的な取組み、施策が実現するように引き続いて提案をして参りたいと思います。

こうした考え方について、皆様のご意見等をお寄せ頂ければ幸いです。

メールアドレス：ogi-ken@ae.wakwak.com